

ABSTRACT ART IN JAPAN AFTER 1945

GUTAI、『墨美』、アンフォルメル旋風、数々の神話に彩られた一九五〇年代の関西の美術を「素晴らしい遊び場」ではなく、欧米に由来するモダニズム美術の一つの臨界としてとらえ直すことは可能か。

学芸員生活35年を迎える著者が国内外の数々の展覧会カタログに寄稿した論文を通して、浮かび上がる戦後日本の抽象美術の核心。身体と物質、アクションとタブロー、そしてグローバリズム。多くの作家やコレクター、批評家たちと交流する中で日本の戦後美術の連続と断絶を展覧会によって検証してきた著者ならではの視点による戦後美術史の再検証。

戦後日本の 抽象美術

具体・前衛書・アンフォルメル

尾崎信一郎

2022年10月刊行

思文閣出版

「目次」

第一部 具体とアンフォルメル

具体 絵画へいたるアクション

具体と山村コレクション

アクションの発見―具体、ポロック、カプロー

具体美術協会を再導入する

アンフォルメル その可能性の中心

吉原治良と写真の視覚

堂本尚郎 移動と断絶

第二部 書と抽象絵画

森田子龍と前衛書

書と抽象絵画―一九五〇年代の二つの実践

書とミニマル・アート

吉原治良と書

須田剋太の絵画

川端実のブレイクスルー

第三部 戦後美術を読み直す

一九五〇年代のキュビズム

アメリカの影

身体と場―日本の戦後美術におけるアクション

断絶の連続 戦後日本の抽象絵画

初出二覧／英文解題／英文目次

Gutai, Avant-garde Calligraphy, Art Informel



尾崎 信一郎

(おさき・しんいちろう)

鳥取県立美術館整備局 美術振興監

1962年、鳥取市生まれ。1992年、大阪大学文学部大学院芸術学研究科博士課程単位取得修了。1987年より兵庫県立近代美術館、1995年より国立国際美術館、1998年より京都国立近代美術館に勤務。2006年より鳥取県立博物館に勤務し、2021年に鳥取県立博物館館長。2022年より現職。
著書として『絵画論を超えて』(1999年 東信堂)、共著として『美術批評と戦後美術』(2007年 ブリュッケ)ほか多数。

企画した主な展覧会として「重力-戦後美術の座標軸」(1997年 国立国際美術館)、「Out Of Actions - Between Performance and the Object」(1998年 ロサンゼルス現代美術館ほか巡回)、「痕跡-戦後美術における身体と思考」(2004年 京都国立近代美術館)、「生誕 100年 彫刻家辻晋堂展」(2010年 鳥取県立博物館)、「日本におけるキュビズム」(2016年 鳥取県立博物館ほか巡回)ほか多数。

[注文書]

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町 355
tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
<https://www.shibunkaku.co.jp>
E-mail:pub@shibunkaku.co.jp



戦後日本の抽象美術—具体・前衛書・アンフォルメル

本体 7,500 円 (税別) ISBN978-4-7842-2027-4 C3070

注文票

発行：思文閣出版（京都 取引コード 3402）

冊数

冊

お名前・ご住所

tel

e-mail

〒

送本方法

代引（書籍代+消費税+送料 800 円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担）

◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます◎